

自分スタイルの確立！ 通信制

バレーボール部、東部地区大会で栄冠を掴む！

～仲間とともに勝ち取ったチームの絆～

本校バレーボール部が、13チームが参加した東部地区大会で見事優勝を果たしました！予選リーグを突破し、佐倉高校、四街道高校、市立銚子高校と強豪校を撃破。決勝戦では熱い戦いの末、栄冠を手に入れました。選手たちが見せた強さと絆の秘密に迫るべく、選手および副顧問の先生にお話を伺いました。

選手たちの声 - 感謝と成長 -

キャプテン 古家絢斗 君

優勝が決まった瞬間、これまでの努力が報われたと実感しました。このチームならではの強みは、どんなときも元気にプレーできること。特に、サーブやミドル攻撃が功を奏したことが勝因でした。後輩たちには、基礎を大切に、細かいプレーを丁寧に積み上げてほしいです。

副キャプテン 小林龍之助 君

練習では声を出して盛り上げ、一つひとつのプレーを丁寧にすることを意識しました。母をはじめ、練習着の洗濯や食事、送り迎えなど、家族の支えには本当に感謝しています。今後は県大会で上位進出を目指し、さらに技術とチーム力を高めたいです。

伊藤弘翔 君

応援してくれた皆さん、本当にありがとうございました。一人ひとりの声援が大きき力となり、優勝を勝ち取ることができました。バレーボールは仲間との信頼が何より重要です。練習や試合だけでなく、普段からの絆が深まることで、どんな壁も乗り越えられます。後輩たちには、恐れずチャレンジし、自分のプレーを振り返る習慣をつけてほしいです。

古川拓海 君

この大会を通して、サーブの重要性を学びました。自分の役割は、どんな時でも思い切って挑む姿勢でチームに勢いを与えることです。試合中、コート内外で喜びを分かち合えた瞬間に、仲間との絆を強く感じました。

副顧問から見たチームの成長

副顧問の小林先生は、選手たちの努力と成長に目を細めます。「一人ひとりが役割を全うし、チームワークが素晴らしかったです。特に印象に残ったのは、練習の成果がそのまま試合で発揮された瞬間です。この優勝は、選手たちが失敗を恐れずに挑戦し続けた結果です。」と語り、次のように続けました。

勝利を支えた「絆」と「楽しむ心」

今回の優勝の鍵は、どんな時でも楽しむことを忘れないチームの雰囲気と、選手たちの高い技術力でした。試合を振り返れば、全員が全力で声を出し、チーム全体が一丸となって戦った様子が鮮明に浮かびます。応援席からの声援も、選手たちに大きな力を与えました。この勝利はゴールではなく、新たな挑戦のスタート地点です。

バレーボール部の次なる目標である「県大会でのベスト4進出」に向けて、チームはさらなる成長を続けていくことでしょう。これからも、応援よろしく願いいたします！



歴史を繋ぐ新たな一歩！ 八日市場・横芝合同運動会が生んだ絆と感動

百年の伝統を超えて、初の合同開催！

11月14日、八日市場ドームで令和6年度「長戸路学園合同運動会」が開催されました。本校の創立から100年を超える歴史の中で、初めて実現した横芝敬愛高校との合同運動会。この特別な日、両校の生徒たちは互いに汗を流し、心を通わせ、新たな絆を結びました。

熱い戦いが繰り広げられた競技の数々

競技は、大縄跳び、ソフトバレーボール、借り人・物競争、10人11脚、そしてウルトラクイズという多彩な内容で行われました。初対面の生徒たちが最初は緊張しながらも、競技を通じて次第に打ち解けていく様子は、見る者の胸を熱くしました。

両校運動会で初めての試みとなる全生徒が参加したウルトラクイズ。アリーナ全体を使い、これまでの両校の歴史をテーマにした問題に挑戦しました。「こんな形で歴史を共有できるなんて良かった」との声も上がり、競技を超えた「学びと繋がり」の場として記憶に残る時間となりました。



成功の裏にあった協力の輪

この合同運動会を支えたのは、生徒主体の実行委員会と、両校の先生方のサポートでした。前日の準備から当日の審判、片付けまで、全員が一丸となり運動会を成功に導きました。この協力こそが、イベントの真の成果といえるでしょう。

終わりに

合同運動会は、単なる競技の場ではなく、互いの歩んできた道を知り、新しい絆を生む場となりました。初めて出会った生徒たちが、最後には笑顔で「また会おう」と言葉を交わす姿に、このイベントの成功が凝縮されていました。

両校の生徒たちが紡いだこの「初」の物語が、未来への希望を灯すものとなるよう願っています。今回の経験が、さらなる交流のきっかけとなることを心から期待しています。



木内実行委員長が語った合同運動会の感想 「大きな達成感を感じています。」

○準備期間について

横芝敬愛高校の生徒との初対面は緊張の連続でした。最初は話し合いが進まず苦労しましたが、徐々に慣れて積極的に提案や発表ができるようになり、協力体制が整いました。競技の選定では、横芝の伝統である「10人11脚」や、両校で希望のあったソフトバレーボールを採用するなど、双方の意見を尊重しました。

○当日の印象について

当日を迎えるまでちょっと不安だったのですが、実際には皆さんがすごく協力的で、両校とも一緒に進行を支えてくれました。本校の生徒の皆さんも全力で競技に臨み、真剣に勝負を楽しんでいました。

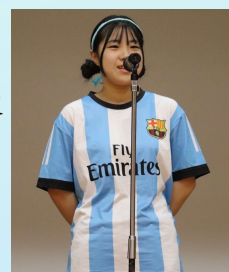
○責任と成果

実行委員長としてのスピーチは緊張しましたが、無事に終わることができました。合同運動会が成功し、歴史に残るイベントにできたことに大きな達成感を感じています。

○今後への提案

事前練習の重要性を実感しました。特に大縄跳びや10人11脚は練習が結果に直結します。また、競技前の応援合戦や保護者向けのライブ配信などを取り入れると、さらに盛り上がるのではないのでしょうか。

運動会は互いを知り、絆を深める貴重な機会でした。後輩には、この経験を今後の行事にも活かしてもらいたいと思います。



未来をつなぐ一羽の想い - 赤い羽根共同募金 -



校長室で、3年生の生徒代表が匝瑳市福祉協議会の方に12,650円の募金を手渡しました。その金額には、生徒たちや教職員の温かい思いが詰まっています。

代表生徒は「募金活動を通じて、地域の課題や助け合いの大切さを学びました。この募金が必要とする方々の力になればうれしいです」と語り、地域の一員としての自覚を胸に抱きました。

今回の募金は、地域福祉を支える力になるだけでなく、生徒たちに「つながり」を実感させる貴重な経験となりました。12,650円という額以上に、この活動が生み出した絆が地域に優しい光を灯しています。